

体験活動団体助成事業 選考結果総評

水・地域イノベーション財団では、2025 年度より「体験活動団体助成事業」を開始しました。その目的は、募集要項に記載の通り、次世代を担う青少年が、水と地域に関わる体験を通じて逞しく生きる力を育む場を持続的に提供できる団体を支援することにあります。そのため、長期的視点に立った団体のプロジェクトを助成対象にしていることが本事業の特徴と言えます。選考においても、従来の活動からどのように充実しているか、団体として自立的運営がなされているか（あるいはその展望が描かれているか）を重視しました。

助成対象は、(1)体験活動分野、(2)指導者等養成分野から構成され、2026 年度開始プロジェクトとして各 1 件の応募がありました。

体験活動分野では、大分県の山国川流域において小中学生を対象に実施される「山国川こども隊」というプロジェクトが応募されました。応募団体は現時点で任意団体ですが、3 年間の体験活動を通じ、団体の法人化と自立化を目指しています。川の上・中・下流での体験を通じ子供たちが川を知り、親しむ機会が提供されるほか、大学生ボランティアの成長、流域住民との交流を通した地域活性化の芽も期待できることから採択いたしました。ただし、「こども隊」以外の事業を含めた組織体制や収支見通しなど、団体の運営については、現時点では不確定要素が大きく、各年の活動を通じ自立化に向けた計画を具体化することが求められます。

指導者等養成分野では、この分野で豊富な実績をもつ NPO 法人から、事務処理を含むシステムの効率化、講習参加者の負担軽減を図る研修プログラムの改変などが提案されました。同団体の活発な活動を支援することは、広く「川に学ぶ」機会の提供につながりことから採択いたしました。ただし、昨今のさまざまな社会情勢の変化、地域との関係性の深化という観点を踏まえて、「川に学ぶ」の内容を再検討し、その結果を指導者養成ならびに団体全体の事業計画に反映されることを期待します。

最長 5 年というスキームの影響を受けたのか、応募は上記の通りでした。持続可能性に課題を抱える団体は少なくないと考えられ、(1)に応募された団体のように運営を軌道に乗せるために、本体験活動団体助成のニーズは高いと推察されます。当財団としても、本事業の周知に向け、引き続き広報活動の充実を図ってまいります。

2026 年 2 月 2 日

公益財団法人 水・地域イノベーション財団